

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、V】
2 実施対象者	札幌市立盤溪小学校 3～5年生 18名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・スキー指導を通して、我が国のオリンピックの関わり、オリンピックの精神などを学ぶ。 ・学習を通して、児童がより自分の技術を向上・練磨させ、生涯にわたってスキーを楽しもうとする。 ・本校独自の総合的な学習「単元：生涯スポーツ」を実践する上で、意欲的に取り組むきっかけとする。
5 取組内容	・本校児童が日常スキー学習を行っている「ばんけいスキー場」において、通常のスキー学習を行い、学習の指導補助をしていただいた。 ・指導を受けるのは、本校の技能別学習グループの上級グループの3～5年生18名とした。（6年生は学年閉鎖のため不参加） ・スキー学習の途中で、オリンピックにデモンストレーション滑走をしていただき、全校児童で見学をした後、その場で本校児童のスキーに取り組む姿勢について助言をいただいた。 ○指導計画〔体育2時間扱い〕 10:15 川端さんと打合せ 10:25 スラロームバーンに子どもたちが集合 10:30 川端さんのデモンストレーション 講師の紹介後、オリンピックやスキーについて講話 10:40 上級グループ児童と顔合わせ後、スキー学習開始 *もともとの担当教員は補助に入る 11:45 スキー学習終わり 最後にグループの児童と挨拶

6 主な成果	・国内トップレベルの技能を身に付けるまでの努力や苦勞を聞き、オリンピックを身近に感じるとともにスキー学習への意欲が高まった。 ・オリンピックの歴史についての講話は子どもたちの心をつかんだ。ちょうどピョンチャンオリンピックの時期とも重なり、ウィンタースポーツの興味・関心が広がった。 ・腕の使い方や、荷重の仕方など、ポイントを絞ったわかりやすい指導をしていただき、子どもたちは今後の自分の滑りにいかすことができた。 ・児童のスキー場でのマナーやスキーに向かう姿勢をほめていただき、今までの取組に自信をもつことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	・時間が限られていたため、上級グループの児童への指導補助しか行えなかった。 ・ばんけいスキー場が、ちょうどスキー学習で混み合う時期であったため、リフトに乗る回数が少なくなってしまった。日程と時間の調整も考えた方がよい。 ・オリンピックの語る言葉には重みがあり、学ぶべきことも多くあった。実際のスキー指導も素晴らしかったが、総合的な学習の時間等で室内での交流の場を設定するとより一層、児童の心に残る活動となった。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。